

クリティカルショルダーアングルの計測精度向上のための画像情報等 を用いた後ろ向き研究

●はじめに：

CTなどの画像診断機器の普及や発展は、整形外科領域における診断、さらには予後を予測するために役立っています。クリティカルショルダーアングルという角度は、肩甲骨の形態を反映しているもので、最近では手術後の合併症リスクや機能回復の程度と関連があることが報告されています。しかし、その角度は患者さんの姿勢や体格、X線画像の撮影者によるポジショニングなどにより著しく変化する可能性があります。そこで今回、正確なクリティカルショルダーアングルの計測のための、X線画像の指標を検討します。

●対象：

当院を受診し、平成25年1月1日から平成31年2月28日までに画像検査を受けられた患者さんが対象で、予定症例数は300症例です。

●方法：

- ・通常の診療に必要な検査結果および画像データなどを使用します。
- ・利用する情報

カルテ情報：診断名、年齢、性別、身長、体重、患者および医療者立脚型スコア

画像情報：X線画像、CT

- ・新たな追加検査をすることはなく、患者さんに余分な費用や危険は生じません。

●個人情報について：

- ・個人情報の漏洩を防ぐため個人を特定できる情報は削除しています。
- ・研究結果の公表の際には患者さんを特定できる情報は含まれません。
- ・研究の目的以外に患者さんのデータを用いません。

●参加しない場合や同意を取り消した場合でも、患者さんに適切な治療を行い、治療上不利な扱いを受けることや、不利益を被ることはありません。

●当院を受診し平成25年1月1日から平成31年2月28日までに肩関節の画像検査を行い、腱板断裂、変形性肩関節症または上腕骨近位端骨折の診断で肩関節の手術を受けた患者さんで、この研究に診療データを提供したくない方は[下記問い合わせ先までご連絡下さい](#)。

●研究期間：病院長承認日から2022年3月31日まで

●医学上の貢献：

研究結果は、手術前に施行した画像検査から手術後の再断裂リスクや機能回復の程度などを予測することにつながり、安全で質の高い手術治療または予後予測に有用な情報となります。

●データの削除について：

データ解析後あるいは学会論文発表後には，診療データの提供を拒否してもデータの削除ができない場合があります．

●問い合わせ先

〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目

札幌医科大学附属病院 整形外科

研究責任者 射場 浩介

研究分担者 芝山 雄二

平日：tel) 011-611-2111 (内線33330)

夜間・休日：fax) 011-641-6026 (休日明けに連絡を差し上げますので連絡先が分かるように明記下さい)